



2 0 2 6 年 5 月 2 8 日

日 本 鉄 道 労 働 組 合 連 合 会

第15回政策シンポジウム・決起集会を開催！①

第1部 政策シンポジウム

新幹線の整備推進に向けて想いを固め合う



5月19日、J R 連 合 は 「 高 速 鉄 道 ・ 新 幹 線 ネットワークの構築・計画推進」をテーマに、衆議院議員会館にて「第15回政策シンポジウム・決起集会」をWEB併用で開催した。当日はJ R 連 合 国 会 議 員 懇 談 会、「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」所属議員や友誼産別、各エリア連合から約250名が参画した。

第1部の冒頭、J R 連 合 を 代 表 し て 上 村 良 成 会 長 が 挨拶に立ち、「新幹線は優れた交通手段として日本の成長エンジンの役割を果たしてきた。昨今、整備に対してアゲインストの風が吹いているが、働く者の立場から改めてその有用性を示し、整備促進の機運を醸成しよう」と呼びかけた後、鉄道局予算拡充や人口減少下における交流人口拡大の必要性、B/Cの課題、貸付料のあり方について所見を述べた。

続いて、J R 連 合 国 会 議 員 懇 談 会 三 役 が 各 自 挨拶に立った。榛葉賀津也会長は「課題は山積だが、整備計画路線、リニア中央新幹線、四国新幹線には大きな夢がある。交流人口拡大を我が国の鉄道行政の中心に据えるべく尽力していく」と力強く述べ、小川淳也副会長は「新幹線は今や日本列島標準装備。公共投資によって賄うべき公共交通となるよう取り組む」と決意を語り、泉健太事務局長は「新幹線は進化してきた。B/Cもより経済交流活動を広く捉えるべきだ」と指摘した。



榛葉会長



小川副会長



泉事務局長



石川産業政策局長

シンポジウムでは、課題提起として、J R 連 合 石 川 敏 也 産 業 政 策 局 長 が 取 り 巻 く 情 勢 と 課 題 に つ い て 説明し、鉄構労松本敬太郎書記長がB/Cの算出方法と課題、とりわけB(利益)に含まれていない指標が多分にあることを解説した。



松本書記長

基調講演では、金沢大学の山口裕通准教授より「携帯電話位置情報データからわかる新幹線開業による旅行先価値向上効果」と題し、北陸新幹線の金沢開業は、金沢に行きやすくなった効果のみならず、行きたくなった＝「旅行先としての価値が向上した」効果が生じたと紹介した。加えて、この効果を最大化させるには、各計画対象地域の受け入れ準備が重要であり、国土計画の視点から、交流活性化を見据え戦略的に決定すべきと指摘した。



山口准教授

最後にJ R 連 合 羽 野 敦 之 副 会 長 (J R 西 労 組 中 央 執 行 委 員 長) が 総 括 を 行 い、「開業効果の大きさは働く者が身をもって体験しており、機運醸成に取り組みたい」と述べて第1部を閉幕した。

